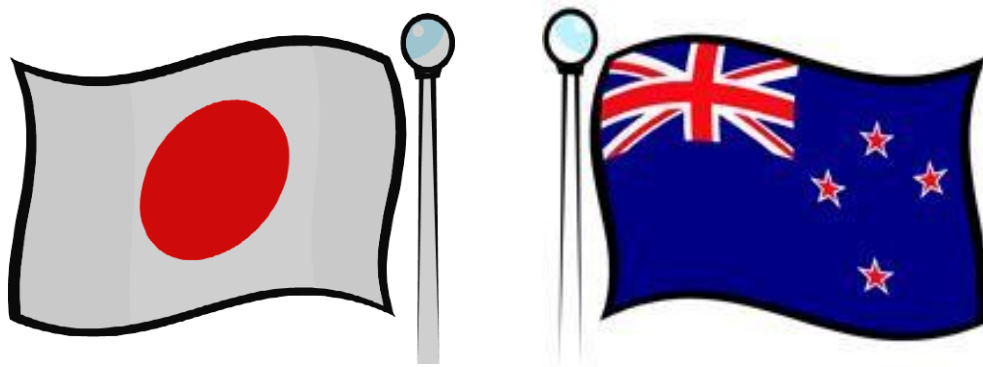
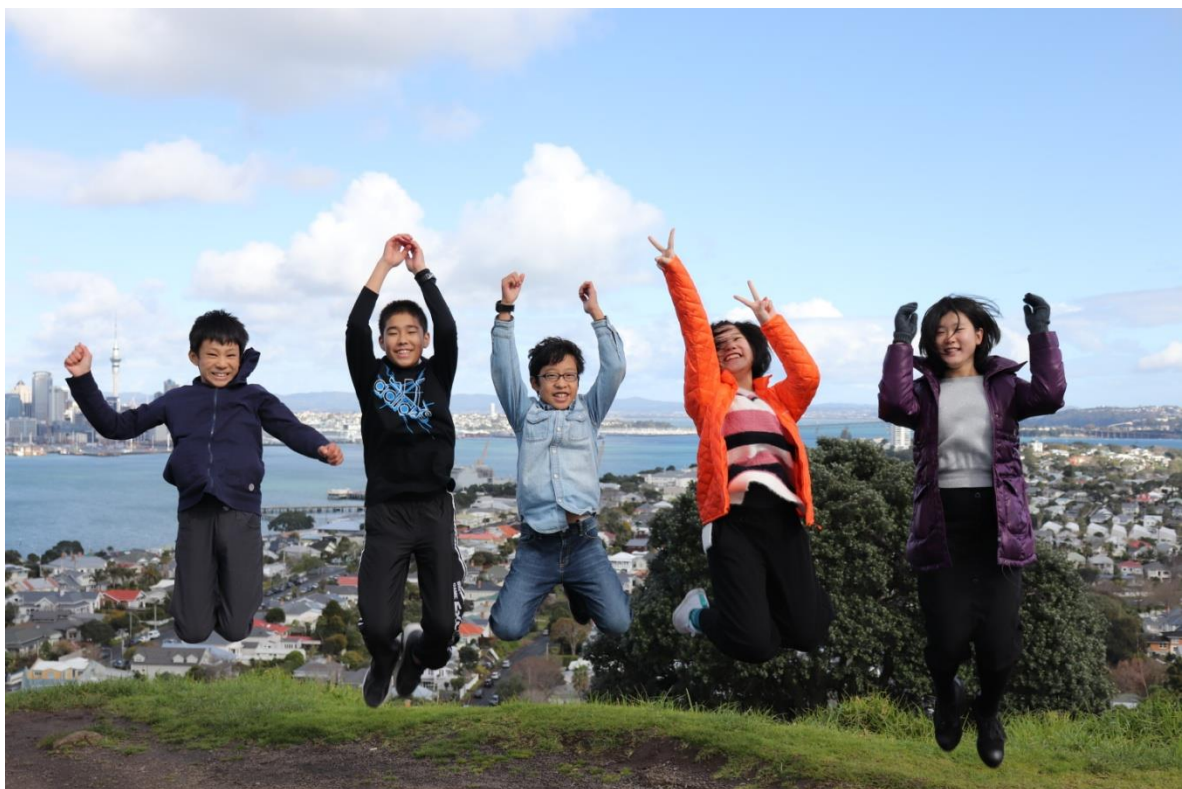




平成30(2018)年度

姉妹都市ニュージーランド研修旅行 報告書

8月16日(木)～8月25日(土)



廿日市市国際交流協会

目 次

ニュージーランド海外研修旅行について・・・・・・・・・・・・・・・・	1
ニュージーランドについて・・・・・・・・・・・・・・・・	2
姉妹都市マスタートンについて・・・・・・・・・・・・・・・・	3
出発までの旅行説明会・事前学習会の記録・・・・・・・・	4
日程表・・・・・・・・・・・・・・・・	5
全日程の概要(日記)・・・・・・・・	6
参加者感想文・・・・・・・・	14
木山 拓志(中学1年)	
迫 翼 (中学1年)	
川本 暖大(中学1年)	
藤本 一花(中学3年)	
沖廣 遥果(中学3年)	
近藤 啓子(引率者兼通訳)	
三登 大雅(引率者)	
姉妹都市マスタートンでお世話になった方々・・・・・・・・	32
参考資料・・・・・・・・	33

ニュージーランド海外研修旅行について

廿日市市とニュージーランド・マスタートンとの交流は、平成4年(1992)年に廿日市市の木材関係の企業がマスタートンに工場をつくり、ニュージーランドに進出したことをきっかけに始まりました。その後、相互にホームステイを受入れたり、学校間で文通をしたり、市民の描いた絵画を交換するなどさまざまな交流が広がり、廿日市市国際交流協会では平成8年(1996)年から海外視察研修を主催し、市民の皆さんに交流の機会を提供してきました。

平成10(1998)年4月21日、廿日市市とニュージーランド・マスタートンは「市民が主役の国際交流を深めることにより、両市の市民がお互いに心から理解し合えること」をめざして姉妹都市になりました。

姉妹都市提携後、国際交流協会では、廿日市市の未来を担う中学生・高校生を中心に、マスタートンの人たちの暮らしや文化を肌で感じ、学生をはじめとする地元の人たちと交流する機会として、ホームステイ研修を継続実施しています。開始当初、この研修は何度もの抽選を経て参加者10人程度を選ぶ状況で、毎年実施していましたが、個人での語学留学や海外の姉妹校との交換留学などが盛んに行われるようになった近年は、隔年で実施しています。

今年は廿日市市とマスタートンと姉妹都市提携をして20周年の節目の年です。今年5月にはマスタートンからリン市長が廿日市市に来られ、市制施行30周年記念式典への出席とニュージーランド物産展をゆめタウンで2日間開催しました。物産展では、リン市長も販売員をされたり、2年前に研修旅行に行った高校生も販売員として手伝ってくれました。また、姉妹都市20周年のパネルも展示し、市民の皆さんに姉妹都市の歴史についてより詳しく伝えることができました。

この海外研修旅行も今回で16回目となり、両市の長年の交流により、マスタートンでの市長をはじめ、ホストファミリーの皆さんの対応も非常に心温かいものでした。このことは、参加したみんなが感じていることだと思います。

今回参加したのは中学生5名と引率者2名(国際交流協会ボランティア、市職員)の合計7名でした。

この研修に参加した学生たちは、ホームステイを通じて、人との関わりの大切さを学ぶなかで、廿日市市とマスタートンとの交流の架け橋としての役割ができたのではないのでしょうか。

	ニュージーランド	マスタートン	日本	廿日市市
人口	約 469 万人	約 2.3 万人	約 1 億 2734 万人	約 11.7 万人
面積	268, 680km ²	2427km ²	377, 835km ²	489km ²

ニュージーランドについて

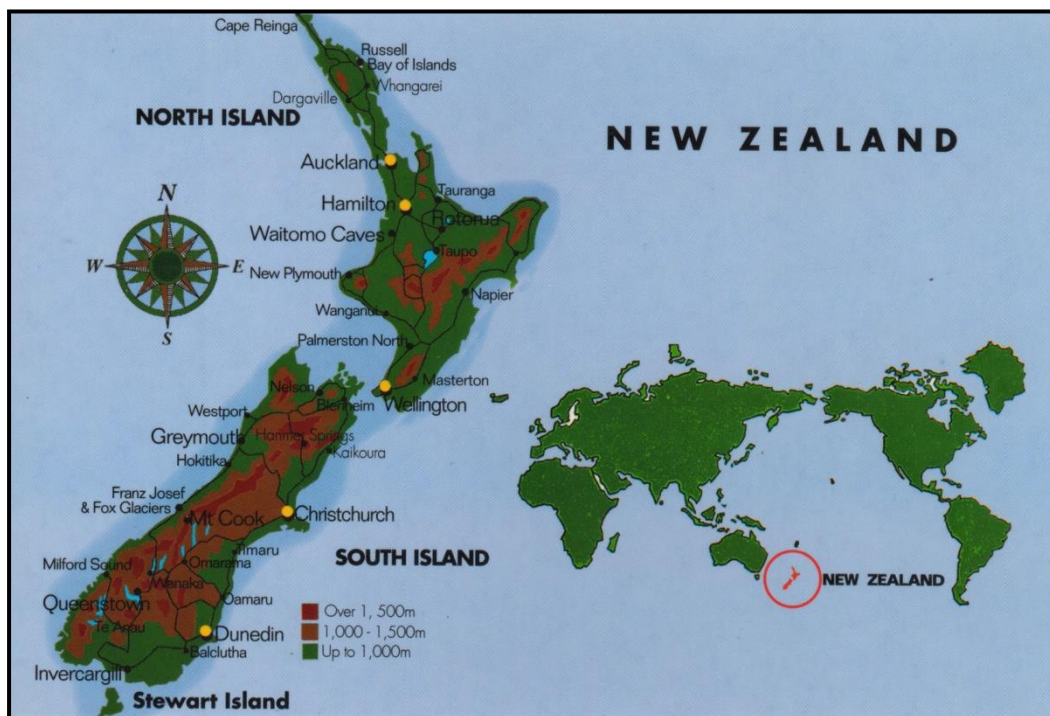
ニュージーランドは、日本から9000km以上（時差3時間）離れたところにあり、非常に遠く感じますが、意外に日本と似ているところが多く親しみを感じる国です。同じ島国で、山、海、火山、温泉などがあり四季もあります。ところが、南半球にあるため、季節が日本の逆で8月はニュージーランドの冬です。

大きな島が二つあり、北島と南島と呼ばれています。これ以外に小さな島もたくさんあります。日本では北に行くほど寒くなりますが、ニュージーランドでは反対で、南島の方が寒く氷河などがあります。

ニュージーランドといえばすぐに羊を思い浮かべるでしょうが、本当に羊が多く人口の約7倍います。しかし、ニュージーランドの牧場では羊だけを飼っているわけではありません。また、牛の数も人口を上回っているようです。お米はほとんど作られず、主に小麦や大麦などが平野部で作られています。

ニュージーランドは非常に古くから島国であるため、ニュージーランドでしか見られない動物（特に飛べない鳥など）がたくさんいます。しかし、人間の歴史で考えれば、ニュージーランドは非常に新しい国です。10～11世紀頃（日本の平安時代）、ニュージーランドの先住民族（マオリ族）が南太平洋の諸島から移住し始めました。それまで人は全く住んでいませんでした。

また、現在、人口の80%を占めるヨーロッパ系の人々が19世紀になってから移住し始めました。人口は、約469万人です。

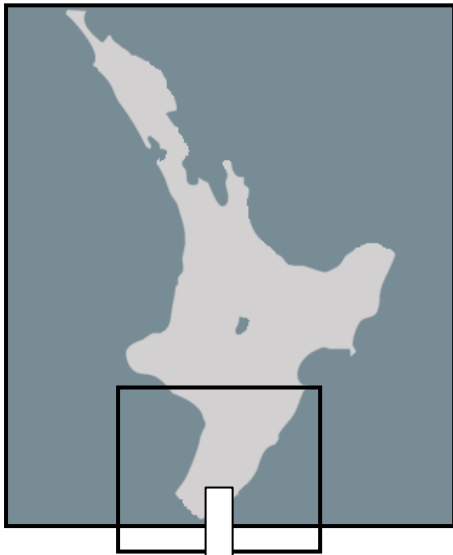


姉妹都市マスタートンについて

マスタートンはニュージーランドの北島の南部にあるワイララパ地方に位置し、首都のウェリントンから105km(車で約1.5時間)離れたまちです。面積は2427km²で廿日市市の約5倍ありますが、人口は約2.3万人で廿日市市の約5分の1です。街の中心部は約800mの道沿いにあり、高い建物はありますが、様々な業種の店が並んでいます。夕方までにぎやかな通りも夜には人影も少なく、静かなまちに変わります。

街を少し離れたら、緑の牧場と大きな空がどこまでも続きます。西側は1000mを越える山が並び、冬は山頂に雪が積もり、とてもきれいな風景です。また、山の斜面が木に覆われ、自然そして緑が多い所です。一方、東の境界は海となっており、エビやカニなどの漁業も行われています。東の丘陵地域では植林が行われ、木材関係の産業もたくさんあります。

マスタートンは比較的風の強く吹く位置にあるため、とても空気が澄んでおり、特に冬の朝日が昇る頃はそのまま日本に持って帰りたくなるような素晴らしい景色を眺めることができます。



どこまでも続く緑の牧場と大きな空



マスタートンの街並み

出発までの旅行説明会・事前学習会の記録

1 旅行説明会

- ① 日時 6月10日(日) 13:00~14:30
 - 1 海外研修旅行・ニュージーランドの概要について
 - 2 旅行諸手続きについて
 - 3 事前学習会について
- ② 日時 7月22日(日) 13:00~14:00
 - 1 事前学習の様子、今後の日程、旅行中の注意事項
 - 2 旅行会社からの説明
 - 3 研修旅行後の報告書の作成、報告会について



2 事前学習会

- ① 日時 6月20(水)18:30~20:00
 - 1 研修旅行の概要説明
 - 2 自己紹介(名前当てゲームで質問や自己紹介を英語で実施)
 - 3 パフォーマンスの話し合い → ソーランに決定
 - 4 ホームステイ先に送る自己紹介カードの説明
- ② 日時 7月11日(水)18:30~20:00
 - 1 前回の課題提出自己紹介カード、スピーチの提出
 - 2 パフォーマンスの練習
- ③ 日時 7月18日(水)18:30~20:00
 - 1 英会話(空港編)
 - 2 パフォーマンスの練習
 - 3 スピーチ発表練習
- ④ 日時 7月25日(水)18:30~20:00
 - 1 英会話(ホームステイ編)
 - 2 スピーチ発表練習、NZの紹介、マオリの歌練習
 - 3 パフォーマンスの練習
- ⑤ 日時 8月1日(水)18:30~20:00
 - 1 日記について順番を決める
 - 2 スピーチ発表練習、マオリの歌練習
 - 3 パフォーマンスの練習
- ⑥ 日時 8月8日(水)14:00~20:00
 - 1 出発にあたり注意事項
 - 2 スピーチ発表練習
 - 3 パフォーマンスの練習

日程表

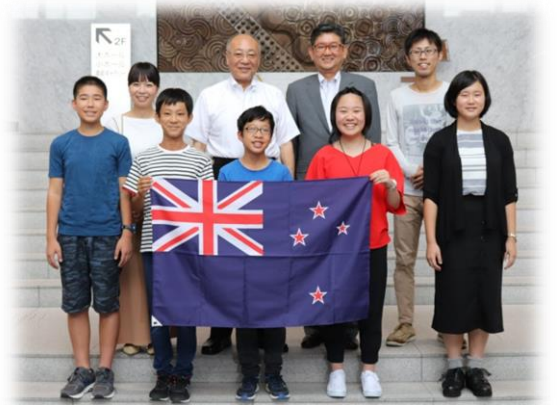
	月日	都市名	日 程
1	8/16 (木)	廿日市市役所 岩国空港 羽田空港	市役所で出発式のあと、専用バスで岩国空港へ 岩国空港より羽田空港へ 羽田空港到着後、搭乗手続き・出国手続き後、NZへ 出発 【機内泊】
2	8/17 (金)	オークランド～ウェリントン	オークランド着 入国手続き・通関後、国内線乗り継ぎ ウェリントンへ ウェリントン見学(ビクトリア山展望台) 【ウェリントン泊】
3	8/18 (土)	ウェリントン ～マスタートン	午前中ウェリントン散策(国会議事堂など) マスタートンへ(専用車で移動) ホストファミリーと対面
4	8/19 (日)	マスタートン	ホストファミリーと自由行動
5	8/20 (月)	マスタートン	ソルウエー小学校訪問 市長表敬訪問 レイクビュースクール訪問(大野学園姉妹校) テ・クラ・カウパパ校訪問 パウワワールド
6	8/21 (火)	マスタートン	セントマシュー女子校訪問 ウールシェッド(羊の毛刈り)見学
7	8/22 (水)	マスタートン	ジューケンニュージーランド見学 プカハ マウントブルース見学(自然公園) サヨナラパーティ(ソルウエー小学校)
8	8/23 (木)	マスタートン～ウェリントン ～オークランド	マスタートン出発、ウェリントンへ ウェリントン空港から国内線にてオークランドへ スカイタワーで夕食 【オークランド泊】
9	8/24 (金)	オークランド	自由研修 オークランド空港 出国手続き後、羽田空港へ 【機内泊】
10	8/25 (土)	羽田空港 岩国空港	羽田空港 入国審査手続き 岩国空港到着～解散

全日程の概要（日記）

8月16日（木） 沖廣遥果

今日からニュージーランドへ向けて出発しました。出発式の少し前、家から市役所へ行く直前に突然雷雨になって「これで飛行機が飛ぶのかな」と少し心配をしていましたが、出発式を終え空港に着くころには小降りになっていてほっとしました。

私は、海外はおろか空港にも行ったことが無かったので、一つ一つの動作に緊張しまくりました（笑）。空港に着くと、しょっぱなから荷物や座席のトラブルがありましたが、無事に出発することができました。初めての飛行機でしたが遊園地の絶叫系の苦手な私にとってはとても怖かったです。途中、気流の影響で大きくぐらついて、とにかく怖くてプチパニックでした（笑）。でも景色はとても綺麗で、瀬戸内海や雲の上の景色、東京の夜景がはっきりと見えて感動しました。その後羽田に着くと、お札の両替や出国検査があり、終わるとフードコートで夕食を食べました。空港はとても綺麗で広かったです。そして、オークランド行きの飛行機に乗りました。さすがに 10 時間乗りっぱなしはキツかったけど、一つ一つが新しく面白かったです。



8月17日（金） 川本暖大

今日も移動の多い一日でした。現地時間の七時に目が覚め、六時間しか眠れなかったのもう一度眠りにつこうとしたが、飛行機の中なので、なかなか眠れずそのまま起きることにしました。人生初の機内食を食べました。「気圧などの影響であまり口に合わないかな」と思っていたが、オムレツはフワフワで果物は新鮮でとてもおいしかったです。飛行機が着陸し席を約 10 時間ぶりに立てて解放感がありました。しかし、その後には入国検査が待っていました。とても「ドキドキ」しながら列に並びました。家でも、飛行機の中でも入国検査の練習をしていましたが、何も聞かれませんでした。ガツクリのような安心のような気分になりました。その後またすぐ手荷物検査があり、外国人に「何か食べ物を持っていますか」と聞かれ、おもわず日本語で「もみじまんじゅう」と答えてしまいました。外国人に「ん？」と言われ、パニック状態になってしまいました。お菓子も持っていたので「スナック」と答えると何とか通過することができました。



その後また飛行機に乗り、車に乗り、ウェリントンのビクトリア山展望台へ行きました。展望台はながめが良く、海や山や空港など、360 度見わたせました。その展望台の所に、木でできた、人が積み重なったようなオブジェや大砲があり、おもしろさやかっこいいと思う部分がありました。夕食はホテルで食べました。ビー

フステーキは、身はしっかり脂の部分はトロトロで、ビーフシチューのようなソースが掛けてあり、ホッペが落ちるほどおいしかったです。デザートはアイスを食べました。ココア、マンゴー、チョコの三種の味であり食べない組み合わせでしたが、おいしかったです。アイスを食べているとき、ここは冬ということを忘れていて、食べた終わった後は、体がふるえてました。

みんなでコンビニへ向かいました。コンビニの中は、すべて英語で商品を見るまで何がなんなのかわかりませんでした。商品はどれも大きく、おかし所では、袋の中で小分けになっているものは少なく、見るものほとんどが初めてなので、買うのにどれがいいか、とても迷いました。そこで買ったおかしで、おかしパーティーをしました。MIX グミやヨーグルト、ポテトチップス、ブルーチーズを食べました。予想以上にほとんどがおいしく、色々食べ比べました。一番おいしかったのは、ブルーチーズを乗せた、ポテトチップスでした。

今日発見した、日本と違うところは、①プラスチックゴミを減らすため、あまりビニール袋をくれない。②信号が青になった時の音が「ピーコッコッコ」と鳴る。③横断歩道のほとんどにしま模様がいない。④車の信号機が少なく、右側が優先ということです。明日は何の発見があるのか、ホームステイ先がどんな所か楽しみです。

8月18日(土) 木山拓志

今日は朝、ウォーキングをしたい人はすることになっていました。そして、外に出ると少し雨が降っていて、とても寒かったです。雨が途中強くなったので、引き返しました。この日の朝食はビュッフェスタイルで、少しとりすぎてお腹がいっぱいになりました。その後、純子先生と合流してウェリントン市内を散策し、まず海を見ました。とても広くてきれいでした。次に海を見た近くでやっていたマーケットに行って20分程買い物をしました。そのマーケットは土曜日だけしかやっていなかったのもラッキーでした。ぼくは、キウイの絵が描いてあるカードと、マグネットを買いました。その後は街の中にあるめずらしい建物等の写真をたくさん撮りました。中には、日本の会社の富士通があったので驚きました。

次はケーブルカーにのって、山の頂上に行きました。トンネルの中にライトがあり、だんだん変わっていったとてもきれいでした。次は国会議事堂に行きました。その途中にめずらしい柄の駅や裁判所がありました。日本と違って、柄がおもしろかったです。議事堂はハチの巣のような形をしていて、世界でも有名だそうです。たくさん写真を撮りました。

昼食の時間になってショッピングモールの中のカフェにいきました。どれもおいしそうでしたが、朝たくさん

とりすぎてお腹がいっぱいでした。けっきょく残してしまいました。昼食の後は、ホテルに戻って、スーツケースを車につみこみました。その車が、とてもおもしろかったです。途中、山に行き、休憩をしたりしました。さらに40分ぐらいお店がたくさんある通りで買い物をしました。お菓子は、カラフルで味も良かったです。その後、無事マスタートンにつき、ホストファミリーと合流しました。明日は、ホストファミリーと自由行動なので楽しみです。



8月19日(日) 迫 翼

今日はホストファミリーと自由行動をしました。朝、ホストファミリーのトワード君が起こしてくれました。朝、このビーチに行くよ！！と教えてくれました。朝は、シリアルと、緑茶としょうが？をまぜたものでした。お昼から車にのってビーチに向かいました。車から見える全てのものがきれいでした。なんだか広々としていて、その中に羊や牛がいるという感じでした。途中で、ニュージーランドで有名な、クレープみたいな生地で包んでいるものです(野菜を)。ビーチにつくと、そのごはんを食べました。その後はだしになり、海へジャボーン。(ぼくはしませんでした)。そもそも気温は低いし、海水も冷たいし…(最終的には入った)トワードは、ナイフで魚をつかまえたりしていました。その後、はだしでとう台へ行きました。足を切りそう、と思いつつ進んでいると…「おっ、ひなたじゃないかっ」そう、ひなた君に会ったのです。その後きやたくとも会いました。そして海へ入りました、その時パスポートを海に落としてしまいました。その後ずっと IC チップがこわれて、パスポートが使えなくなったら…と心配でした。その後アイスとコーラを買い、寝ました。



その後スーパーで魚を買い、おすしのつくり方を教え…、みそしるもつくって日本の食べ物でいっぱいでした。明日がたのしみです

8月20日(月) 藤本一花

今日、私は朝起きてすぐ、馬のえさやりについて行きました。馬は、防寒のためか、パーカーを着ていました。かわいかったです(笑)馬を初めてさわりましたが、とてもあたたかくて、すべすべしていました。朝ご飯を食べた後は、ソルウェー小学校に向かいました。ホストマザーがソルウェーの先生なので、みんなより早く行きました。彼女のクラスを少し案内してもらい、写真を撮ったり、子供たちと話をしたりしました。元気な子がいっぱいて、朝から明るい気持ちになりました。そのあと



とホールに移動して、歌を歌い合いました。ソルウェーの子供たちは大きい声だったけど、私たちはあまり声が出ませんでした…(笑)そのあとはマスタートンの市長の所へ行きました、想像では、おかたい市長のイメージだったけど、明るくて、すごくアットホーム？な感じでびっくりしました。おかげでリラックスしてプレゼンができました。練習の成果が出せてホッとしました。下手な英語だけど、しっかり聞いてくれてうれしかったです。写真を撮るときにセルフィーをとろうって声をかけられた時はびっくり



りしたけど、とてもうれしかったです。その次はレイクビュースクールに行きました。まず入ってすぐにハカが始まりました。迫力がすごくてびっくりしました。お返しの歌も割と声が出たと思います。その後は学校を案内してもらいました。3人のとても明るくてやさしい子がついてくれました。ふだんの日本の学校と同じくらいたくさん話して笑いました。言葉がわからなかったり出てこなかったりすることたくさんあったけ

ど、フォローしてくれて助かりました。「写真を撮ってあげる」って言ってくれたり「次は何がしたい？」って聞いてくれたり…本当にいい子ばかりでした。あとびっくりしたのは、最初案内してくれた3人が私より年上だと思っていたけど、年を聞くと私より2歳も年下でした。外国の子は本当に大人っぽく見えるんだなと実感しました。特にうれしかったのは、ギターを弾きながら歌を歌ってくれたことです。歌詞に「My best friend」と入っていたのが聞き取れて、とても感動しました。その子が生茶を飲んで顔をしかめていました(笑)別れぎわもみんな悲しそうな顔をしてハグしてくれるのがうれしくもあり、とてもさみしかったです。最後まで手をふってくれました。その後はテ・クラ・カウパパ校に行きました。伝統的なハカが校門から始まってびっくりしました。小さい子がたくさんいて、かわいかったです。相変わらず迫力に圧倒されました。お返しの歌を歌う時に思ったのは、レイクビューの時に気づいたん



だけど、スクールみんなが知っているその歌はキーが低いらしいということです。レイクビューで男の子にピアノを弾いてもらいながら歌ったんだけど、キーが低くてかっこいい感じでした。ソーランは間違えた所もあったけど声はしっかり出たと思います。そのあとは教室を見てまわって、伝統的な棒を使った手あそび？みたいなのをしました。むずかしかったけど、できた時の達成感は気持ちよかったです。写真もたくさん撮りました。名前を

教えると「イチカ イチカ」とカタコトで言ってくれるのがうれしかったです。最後はパウワワールドに行きました。おみやげにかわいいペンダントとしおりとボトルを買いました。いい買い物ことができました。

★付け足し(書いてる途中で思い出した)

レイクビュースクールでとてもシャイな女の子がいて、その子が緊ちようして泣いちゃったんだけど、近づいて「みんなで写真を撮ろう」と言ったら笑顔を見せてくれてうれしかった。こっちの学校はコンピューターをつかった学習方法が進んでいてびっくりした。自由にYoutube など見ていて、すこしうらやましかった。

他にも書きたいことはたくさんあるけど今思い出せたのはこれだけでした。思い出したらすぐ書き記そうと思います。

言葉が通じなくても一緒に笑い合えることが実感できました。むしろその方がジェスチャーなどを使って通じた時の喜びははんぱじゃない。でもちよつとした一言が出てこなかったりして、もどかしかったです。もっと勉強して英語を話せるようになりたいです。通じなかった時、みんながかけしてくれる言葉もとても心があたたまります。もっといろんな人たちと話したいと思いました。明日は女子校に行きます。ホストしてくれるはずだったアンバーちゃんに会えるのが楽しみです。今日一日がとても濃い一日だったおかげでとても眠たくて、汚い字で走り書きしているけど、いつのまにかこんなに書いてしまっていてびっくりしました。でも一日がとても短く感じられました。これは腕時計が日本時間のままだからのせいじゃない(笑)本当に毎日楽しすぎて日本に帰りたくないです。でも早く帰って友達や家族に話したいことがたくさんあります。残された時間全力で楽しみたいと思います。もう目がほとんど開いてません(笑)たぶん意味不明な文章になってそう(笑)だけど明日のためもう寝ます。明日も良い一日になりますように。



8月21日(火) 沖廣遥果

今日は、ソルウェー小学校に集まってから、セントマシューズ女子校と羊の毛刈りに行きました。ソルウェー小学校からセントマシューズに向けて出発するまでに少し時間があつたので自然公園に行きました。雨上がりの虹が見えてとても綺麗でした。セントマシューズ女子校では、私と一花は数学の授業を15才のクラスと13才のクラスの二回受けて、一時間くらい学校案内を受けました。学校案内と13才の数学のクラスは、



ホストファミリーのジェーンを含む3人が案内してくれました。校内はとてもきれいで、1クラス10人位のうちとけたクラスでした。日本の学校とは違い、お菓子を持ってくるでも良かったり、音楽プレーヤーやパソコンを持ってくるでもとても自由な雰囲気でした。そしてクラス数も多く、スペイン語やフランス語の授業もありました。教会や、コンピューター室や別棟の音楽室等、敷地はとても広がったです。

案内が終わると図書室で質問を受けました。皆日本語が上手で、聞き取りやすかったです。その後、私は一花と2回目の数学の授業を受けました。机がグループごとになっていて、互いに相談しながら解いていたので、日本でも取り入れてほしいと思いました。私たちはその間自分の宿題等をしていて、授業が終わると寮がある棟の一階の食堂に行き、昼食を食べました。

私はセントマシューズの食堂のご飯を食べたけど、弁当を持ってくる子もいて楽しかったです。その後は少し時間があつたのでショッピングをしました。一花は寿司の店を見つけて、寿司を食べていました。日本とは少し違う味だったそうです。私は友達用のお土産を買いました。その後に羊毛に関する博物館(?)のような所に行って、羊の毛刈りを見たり、羊毛が糸になるところを見たり、実際に体験したり、羊毛の使い道について見学しました。モコモコだった羊が毛を刈られて小さくなっているのは少し痛々しかったです。(笑)。ホストファミリーの家に帰ってからは、ファミリーの兄妹たちがテコンドーを習うのを見学しました。みんなすごい迫力があって圧倒されました。夕食は和食で、寿司等を食べました。皆はしを使って食べたけど、若干食べにくそうでした(笑)。明日で最後なのがとても名残惜しく感じました。最初は緊張していたけど皆とても優しく面白くて、とても楽しかったです。明日はきちんと感謝を伝えたいな。



8月22日(水) 川本暖大

朝は、ジェイコブが大きな荷物の準備をして、出発が遅くなり、ソルウェー小学校に少し遅れて着きました。そして、JNL 工場へ出発した。工場で働いている人から、スクリーンなどを使って成り立ちなどの説明を聞いた。英語の聞き取りテストのようで、ほとんど分からなかったが、いつも気になっていた謎を解決できた。家に、8人以上で囲める大きな、木のつなぎ目のない机があり、こんな太い木があるのかと思っていたが、木をリンゴのように横にスライスし、それでできた大きな木の板を重ね



れば厚みのあるしっかりとした、机の板ができる。上から見れば、木のつなぎ目がない机になると分かり、とてもスッキリした。実際に森から取ってきた木が置かれている場所を見た。木の山ができて驚いた。一日に500本ほど切っているらしい。また、33年もたたないと、木が使えないと知り驚いた。1本の木がどれくらい重いのかと質問すると、3mでだいたい1tほどと教えてくださった。

バスに乗って鉄道のお土産屋に向かった。外では、「きつねのよめ入り」が行われていた。行くまでにかわいい羊

の赤ちゃんやきれいな虹を見た。鉄道のお土産屋には、30年ほどかけてつくられた電車の走る町の模型があった。それは、信号の光もちゃんとつき、人や馬もいて、ボタンを押すと電車が走ってくれる、とても面積の広い繊細な模型で見るだけでとても楽しくなった。3 cmほどの小さくてかわいい電車もあった。この場所で作られているチーズはとてもおいしかった。土産を何個か買ってプカハマウントブルースという自然公園へ行った。そこで、初めてキーウィとご対面することができた。部屋に入る前は、ビデオを構えドキドキしていた。部屋の中は暗くキーウィのいる世界のみ赤く照らされていた。姿や形は予想通りだったが、大きさは予想外だった。両手で包めるサイズかなと思ったが、ドッジボールのような大きさをしていた。白いキーウィに寄って口ばしでつつき、「遊ぼ遊ぼ」とやっていたので、かわいかったです。その後昼食の弁当を食べたサンドイッチやマスカットがとてもおいしかったが、舌にヘルペスができていて、痛く、友達と分けながら半分食べた。そしてまた、プカハマウントブルースを散策した。世界一大きなうなぎを見た。体長は1mほどあり、エサやりの時は、エサの乗ったスプーンを力強くかんでいて、その音は橋の上まで聞こえてきた。エサやりを見ながら、川に落ちたら大変だなと感じた。自然公園の中には、自由に鳥たちが飛び回っていて、傘にぶつかってきてびっくりした。2つのドアがあり、鳥たちが簡単に逃げることのできないようになっている場所に入った。そこにはたくさんの鳥がいて近くを飛んでいたり、合唱したりしていた。カカという鳥やキーウィに名前が似ているトゥーウィという独特な鳴き声を出す



鳥も見た。ほかの場所では、体が緑色でうぐいすのような大きさのきれいな鳥も見た。見つけるのが大変だったトカゲのような生き物を見た。一番楽しかったのは、カカのエサやりの場で、たくさんのカカをビデオで撮ったことで、近くに行っても逃げず、ビデオを口ばしでつついたり、翼の手をやさしくかんだりしていた。カカのエサはどうもろこしやチーズみたいなものなど色々でした。カカの飛び立つところをカメラで撮ろうとしたが難しかった。自然公園の土産屋にいくと弟に買ってあげたいと思っていたキーウィの歩く人形があった。しかし10\$と高く、オークランド空港では4\$で売っていたのでオークランド空港で買うことにした。ほかの土産を買い、ソルウェー小学校に戻り、ホストファミリーと合流した。帰るときどこに行きたいと言われたので、日本に手紙を送りたいと思っていたので、ポストカードを買いに行った。はがきを選んで2枚買った。すると Jo が、NZ のポスターを母と僕に2つプレゼントしてくれ、とてもうれしかった。家に帰り、Anna にスマホを貸してもらって書き方を調べながらワクワクしながら書いた。そして最後に、「僕と手

紙、どっちが早いかな」と書いた。いい勝負になると思う。祖父母の住所などが分からなかったの

Anna に日本語でメールをうって僕の親に聞いた。日本語が出なかったので、様々なサイトにある日本語を切り取って文を作った。



さよならパーティーを行った。僕のホストファミリー以外にも、様々なホストファミリー、外国人の先生、純子先生たちも来ていた。各ファミリーが持ってきた料理を食べた。ピザやイチゴ、ソーセージやパリパリの生地で巻いてある肉を食べた。どれもおいしかった。でも舌が痛かったので少量食べた。その後、しっかりと高い声で「ポカレカナアナ」を歌い、緊張のスピーチをした。1か所飛ばしたような気がしたが、最後まで発表できた。その後、最後



なので思いっきりソーランを踊ると、みんな盛り上がってくれた。マスタートン市から、ここに来たことを証明する、この市民であることを証明する名誉市民章をもらった。家に帰ると、Jo が「歌やダンスやスピーチがとてもエクセレントだった」と言ってくれ、とてもうれしかった。

夜、星の観察に行ったが、今日も曇りだった。明日のホテルで見られたらいいな。

8月23日(木) 木山拓志

今日は、ホストファミリーと別れる日なので、とても悲しいです。最後に写真をとって、別れました。今日は、朝から曇りで、白い息が出ました。今日、外を見ると羊がすごく近く寄ってきていたので、羊といっしょに撮りました。ホストファミリーと別れた後は、純子先生と写真を撮ってオークランドに向けて、ウェリントン空港へ行きました。何日もいっしょにいたりチャードとも別れるので、悲しいです。その後オークランドに着いてホテルにスーツケースを預けて、5時45分ぐらいに南半球で1番高いタワーのスカイタワーに行きました。スカイタワーでは、ディナーを楽しみました。とても高く、バンジージャンプみたいなアクティビティもできるといっていました。直接上がれなくて近くのビルから地下に行き、上がりました。52階で、すごいスピードで上がって行って耳抜きをしないとキーンという音がして



大変でした。レストランは前菜が出て、メイン、デザート順番で出てきました。レストランは少しずつ床が回って360° 夜景が楽しめます。前菜は、スープで、ココナッツが入っていてけっこう独特な味がしました。メインは、ビーフ、チキン、サーモンの3種から選べて、ぼくはビーフにしました。ビーフは、初日のホテルで出てきたものに似ていておいしかったです。デザートはあまり食べなかったのですが、もう少し食べればよかったです。帰って男子三人の部屋で、みんなが集っておかしやジュースなどを飲み食いしたり、ヒナタがマジックしたりと



いろいろしました。ぼくは2:30ぐらいに寝ました。今日の中でいっぱいあって疲れていたの、すぐに寝ました。明日はオークランド観光なので楽しみです。

8月24日(金) 迫 翼



「Good morning」そう始まるのになれていた Good morning じゃなくて「おはよ」って帰ってきて????????????????てなりました(笑)もう終わりか…学校やだなんて思いました。今日一日を一言で表すと、お金がなかった!!マスタートンやウェリントンで使いすぎてお金がない!!ということになっていました。でも日本円が使えるお店があってよかったです。フェリーで島に行つて山(ビクトリア)に登りました。

古本屋で本を買いました。お金が15ドルたりなくて借りました。その後カフェで、ぼくたち(男3人)はホンダジェットのCMの僕たち版を作りました。コーヒーを買ったけど冷えておいしくなくなりました。そして、編集が完了して、忠実に再現できました。その後、バスでオークランド Airport に行きました。もう終わるのがさみしかったです。



8月25日(土) 藤本一花

ニュージーランドから日本に帰ってきました。羽田空港に降りたとたん暑くて、日本に帰って来たのを実感しました。ニュージーランドでの生活がよみがえってきて、ずっと「帰りたくない～」って声に出ていました。岩国空港に着くと家族が全員迎えに来てくれていました。久しぶりに家族を見ました。家に帰るまで、車の中でニュージーランドでの出来事を話しました。話しても話きれないほどに、



いろいろなことが思い出せました。その後は日本食が食べたいと言った私のわがママを聞いてくれて、寿司を食べに行きました。ニュージーランドのごはんもおいしかったけど、久しぶりに食べた日本食は、とてもおいしかったです。



参加者感想文

中学 1 年 木山拓志

「ニュージーランド研修旅行感想文」

アメリカに住んでいる 2 つ上のいところが、去年の夏、一人で日本に来た時、すごいなと思い、自分もいつか一人で海外へ行くことに挑戦したいと思っていました。そこへ母から「ニュージーランド研修旅行に参加してみる？」と聞かれ、思い切って挑戦しました。母は僕の反応にびっくりしていました。今までの自分は、初めてのことに消極的だったからです。



1 回目の事前学習会で初めてみんなと会った時には緊張しました。6 回の学習会で日常会話の勉強、パフォーマンス披露のソーランの練習、スピーチの練習と、とても大変だったけれども、みんなともだんだん仲良くなってきたし、ワクワクの気持ちも増してきました。初めてのホームステイは楽しみが 8 割、でも 2 割は不安がありました。しかし、ホストファミリーから事前にメールや写真を送ってもらって、楽しみは 10 割になりました。



日本と間逆の季節で真冬だったので、ジャンパーを着るほど寒かったです。雨の日も多く、しかし雨が上がった後の虹はとてもきれいでした。ファミリーに連れて行ってもらったビーチはとてもきれいで、冬でもバイクや車でビーチを訪れる人がたくさんいて、中には海に入っている人もいておどろきました。

お店や学校では気軽に話しかけられて、とてもフレンドリーな人達だと思いました。訪問した小学校や女子校は、教室がカラフルできれいでした。日本の給食とは違い、自由に取れるバイキング形式で楽しそうでした。

ホストファミリーのお父さん、お母さん、お姉さんはとても優しく接してくれました。お母さんは、チキンカレーやパスタを作ってくれました。お父さんは、英語が分からない時、翻訳アプリを使って日本語を出してくれました。別れの朝はとても寂しかった。



たです。お父さんは最後まで送ってくれて、とても嬉しかったです。

学校の違う5人が、日に日に仲良くなっていったのが楽しかったし、三登さんや啓子先生は、分からないことがあった時にすぐに教えてくれたので、とても頼りになりました。日常会話をもっとできるように、日々の勉強をがんばり、英検にもチャレンジしていきたいです。そして、もっと英語で自分の思いを伝えられたらいいと思います。そしてまたホストファミリーと会いたいし、機会があれば、他の国にも行ってみたいです。



「ニュージーランド研修旅行感想文」

僕が今回ニュージーランド研修旅行に参加した理由は、実際に日常生活を英語で話し、自分がどの程度の英語力で欠けている部分はどこかを知るためです。

出発前は、どんなファミリーかな？と思っていました。よく、どんな人かなって想像していました。

事前学習では、いろんなシーンでの英会話を学びました。そしてソーランを発表すると決めました。小さい頃、習っていたのでだいたいは分かりました。そして、回数を重ねるうち、きやたくとひなたと仲良くなれました。



ニュージーランドに着くと、冬だなあと感じました。空気を吸うと冬の感じがしました。とても寒かったです。ウェリントンに、一日滞在しました。スーパーなどに行っても「3 for 5\$」と、3つで5ドル、というのが多かったです。〇個で〇\$に魅かれてつい買ってしまいました。ニュージーランドは、自然がいいです。道を走っても、広く美しい山々が広がっていました。海もきれいで、ホストファミリーと、ものすごく寒いのに、海へ入って魚をとりました。オークランドでは、都会ぽくって町が並んでいて、「スカイタワー」という東京スカイツリーのような建物もありました。それは、オービットと言うこともあるそうです。それは、食事をする席が、1時間に一周のペースで回っているからだそうです。オービットとは、人工衛星などの軌道のことです。町中でも船で数十分行けば、マウントビクトリアに行けます。360°の景色が見られました。古本屋に行って本も買いました。

この研修旅行で心に残っているのは、やはり、ホストファミリーとの生活です。朝はシリアル、昼は弁当、夜は七面鳥（？）みたいな、とにかくボリュームのあるものばかりです。お腹がいっぱい、しかも寒いのに、アイス、ケーキ、ヨーグルトが出てきて大変でした。ホストファミリー（ニュージーランド）の人は寒さに強いです。寒くてもアイスを食べ、海に入り・・・すごいなと思います。



また、レイクビューとセントマッシュズも心に残っています。レイクビューでは、ニュージーランドが強いラグビーをしました。3人の生徒が学校について教えてくださいました。iPadを使っていました。学校には、シャワールームもありました。でも、一番ラグビーが楽しか

ったです。



セントマシューズでは、英語と数学の授業を受けました。英語で物語を作ったりしました。数学では、方位を 360° で表す勉強をしました。とても楽しかったです。学校も見学しました。でも、友達と過ごしたのも楽しかったです。僕たちは、Honda JetのCMのNZ版を作りました。Appleのデバイスで、写真を撮り、I PADのI movieで編集をしました。みんなで撮影していい出来でした。

この研修旅行で、自分から伝える力が低いと分かりました。でも何より、ホストファミリーの人たち、学校の生徒、そして友達と過ごした時間は楽しかったです。また、ニュージーランドに行きたいです。そして、外国の航空会社などで働きたいなと思います。

最後に、この研修旅行に関わった全ての人、ありがとうございました。



「ニュージーランド研修旅行感想文」
～「初めて」や「驚き」の発見～

僕は、このニュージーランド研修に参加して、様々な「初めて」や「驚き」を感じました。初めは、「英会話ができるのか」「忘れ物はないのか」「ホストファミリーの方々とうまく生活できるのか」ととても不安でした。でも、参加者の中に同級生 2 人と頼れる上級生が 2 人いて、みんなと会話をしていくうちに、次第に安心感が出てきました。

ニュージーランドに着いて一番最初に思ったことは、「寒いな」という事です。ニュージーランドは南半球に位置するので季節が逆です。日本の暑すぎる夏から離れられたことにちょっとうれしく思いました。ニュージーランドと日本のちがいをまずは肌で感じました。それと同時に、ほとんど全ての看板が英語へと変化し、いよいよ始まるぞという気持ちになりました。ニュージーランドでは他にも、様々な発見や驚きがありました。その中の 4 つを紹介します。

一つ目は、自然がキレイだということです。日本も自然の豊かな国ですが、僕の中では日本以上にキレイだと思いました。ウエリントンの山からのながめは 360° 見渡せ、緑の豊かな山が広がっていました。マスタートンでは、数多くの緑と牧場が広がり、牛や、やぎ、羊の赤ちゃんなどの動物が、ゆったりと生活していました。



海へ行くと、ゴミが一つも落ちていないことにまず驚きました。その横にある階段を使い、岩山のような所を超えると、うすい水色の空と絵の具のように鮮やかな青い海がどこまでも続く水平線を初めて見ました。色鮮やかなスケールの大きい海を見て、僕は感動しました。他にも、ホストファミリーの庭に朝から、おしどりの夫婦が遊びに来たり、星の光が明るく、はっきりと星空が見えるなど、様々な自然にふれることができました。

二つ目は、ニュージーランドの人はフレンドリーで優しく、日本に興味を持ってくれていることです。ニュージーランドの色々な学校に訪問させていただきました。どの学校でも、「何歳なの」「スポーツ何している」「名前はなんていうの」様々な事を聞いてくれたり、話しかけてくれました。でも、そのほとんどが何言っているのか分からず、首をかしげると、笑っ

てスルーしてくれました。色んなゲームにさそってくれたり、キュウリをくれたりもしてくれました。また、英語の授業に参加した時、先生に英語で何をすれば良いかを説明してくれたのですが、理解できず困っていました。その時、近くにいた日本語を学んでいる生徒が、日本語で説明してくれ、とても助かりました。ニュージーランドの人は、フレンドリーで優



しいと感じました。弁当を食べる時「いただきます」と言って食べようとする、近くの生徒が真似をしてくれたり、ホームステイ先でけん玉を披露すると、チャレンジしてくれたり、駄菓子やもみじ饅頭を渡すと興味を持ってくれたり、「Good night は日本語でどういうの」と聞いてくれたり、日本にすごく興味があるんだと感じました。

三つ目は、フルーツが多いということです。季節が冬なのにもかかわらず、ホームステイ先や、学校の接客室などにフルーツの山がありました。ホームステイの人が作ってくれた弁当の4分の1は丸ごと、りんごやみかん、ブドウやイチゴが入っていました。

りんごを丸かじりするのはめったになく、面白味もありながら、おいしさもありました。家の中にあるフルーツの山は、色鮮やかで部屋のキレイな飾りにもなっていました。弁当の中に人参が丸ごと入っていることもあり、かぶりつくのにはちょっと勇気がいりました。

四つ目は、音楽が好きなのは、外国人も同じということです。マオリの儀式「ハカ」は力強いダンスと大きな掛け声ですごい迫力がありました。そのお返しに「ポカレカレアナ」を歌うとすごく喜んでくれました。ある学校では、一人の生徒がピアノを弾いたり、ギターを弾いたり、ドラムをたたきました。僕達が弁当を食べている時は、ずっと歌をうたってくれて、本当に音楽が好きなんだと感じました。僕もピアノで「猫ふんじゃった」と「テキーラ」を演奏するとすごく喜んでくれました。



ニュージーランドへ出発して3日目からホームステイが始まりました。ホームステイの方々は明るく、いつも気にかけてくれる優しい人でした。僕の他にも、ホームステイをしている日本人がいて、通訳をしてくれたり、英語を教えてくれたり、とても助かりました。でも、ホームステイの人に「自分の力だけで英語を話してみて」と言われ、チャレンジしてみることにしました。雰囲気と、ところどころの単語を聞き取って何を言われているのかを理解し、知

っている単語をつなげ、ジェスチャーを使いながら、片言の英語で話すことをしました。自分が思ったより、英語が通じ驚きました。

ホームステイの人は、牧場を多く所有していて、朝からエサやりの手伝いをするこ

りました。やることなく、イスに座っていると、「レンガ」などのゲームをして楽しませてくれました。

ホームステイなどを通じて、自分に自信を持つことが大切だと学びました。ホームステイ先では、「お手伝いしましょうか」とか、「～がやりたいです」と自分から片言の英語で意思表示をしないと、何も始まりません。また、やりたいことは「やりたい」と言わないと、チャンスを逃してしまうことになってしまいます。でも、それを言うのには、やはり勇気がいりました。それを１０日間、行うことによって、自分に自信がついたと思います。

この研修旅行を計画、運営して下さった皆さん、ホームステイの方々、僕を見送り、笑顔で迎えに来てくれた家族に感謝します。貴重な体験をありがとうございました。

「ニュージーランド研修旅行感想文」

私はこのニュージーランド研修で色々な事を体験する事ができました。私は今回の研修で初めて海外に行きました。昔から外国に憧れを持っていて、今回のチャンスを無駄にしないよう全力で楽しもうと思いながら出発しました。

長いフライトを終えてオークランド空港に着いた瞬間から空気が違うのを感じました。気温の差があるのはもちろんですが、日本より空気が澄んでいるように感じました。ニュージーランドでは何もかもが初めての事ばかりでいい意味で落ち着く暇がありませんでした。街を歩くにも日本とは違う事ばかりで驚きました。

今回特に印象に残っている事が2つあります。

1つ目は学校訪問をした事です。どの学校の生徒もフレンドリーで沢山話しかけてくれて嬉しかったです。負けじと下手な英語で沢山話すことができました。写真も沢山撮って、かけがえのない思い出になりました。日本に帰ってからもSNSで会話する程仲良くなれました。



2つ目はホームステイです。私は今回元々決まっていたホストファミリーの所へ泊まることはできなくなりましたが、急遽泊めてくれた2家族共、温かく迎えてくださいました。

どちらの家にも動物が沢山いました。牛、羊、馬、犬、猫...

私は動物が好きなので、普段なかなか見ることのない動物と触れ合えたのが嬉しかったです。

家ではホストファミリーのお手伝いをしたり、話したりとほとんどの時間を一緒に過ごしました。夕方家に帰ってから家族みんなでミルクティーとお菓子を食べながら話す時間が落ち着けて好きな時間になりました。お茶しながら日本の事について沢山の質問をしてくれました。日本に興味を持ってくれているのが嬉しかったです。

そして、良い経験になったと思うのが、原爆についてホストファミリーと話したことです。私は、マスタートン市長に原爆についてのプレゼンをし

ましたが、それは一方的に私が作った原稿を読むだけでした。外国の人の原爆の印象が知りたくて、ホストファミリーにも同じプレゼンをして、英語で書いてある絵本を読んでももらいました。ホストファミリーはショックを受けながらも色々質問をしてくれました。それに必死につたない英語で答えました。原爆投下は知っているけど、後遺症に苦しんでいる方が居る事や、細かい影響など、知られていない事も沢山ありました。少しでも伝えることができて良かったです。



また、毎日沢山話していると日に日に聞き取れる単語数が増えたり、自然と言葉が出るようになってとても嬉しかったです。

そんなホストファミリーと別れるのはとても悲しかったです。最後に別れる時に、「あなたは日本の家族だから、また夏に会いに来てね」と言ってハグしてくれて、思わず泣いてしまいました。英語をもっと勉強して必ずまた会いに行こうと思いました。

今回の研修はあっという間でした。私は英語が得意だと感じた事がないのですが、ジェスチャーしながら一生懸命話すと伝わって、英語を話す事への抵抗感がなくなりました。また、ホストファミリーだけでなく空港のおじさんや街のカフェの店員さんなど出会う人みんなが気さくで親切で、楽しめました。



今まで以上に海外への興味が湧きました。かけがえのない出会いがありました。英語をもっと勉強して世界中を見てみたいと思えました。そして、積極的に行動することで世界が広がっていくという事を身をもって学びました。

倉田さん、三登さん、けいこ先生、リチャードさんなど今回の研修を支えて下さったみなさん。本当の家族のように接してくれたホストファミリーのみなさん。また、一緒に研修に参加したメンバー。そして、研修を見つけて提案してくれた、送り出してくれたおばあちゃん、お母さん、お父さん。感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

この研修で学んだ、経験したことを活かしてこれからも沢山のチャレンジをしたいです！

「ニュージーランド研修旅行感想文」

私は今回のニュージーランド研修旅行に参加して、本当に良かったと思いました。ニュージーランドは自然がとても美しく、観光スポットもたくさんありました。しかし、それだけではありません。私は現地でのホームステイや、学校訪問等を通して、本当に多くの事を学びました。



まず最初に、英語を学ぶ意味と意欲です。私は英語を習っていますが、最初は両親の意向で、後は半ば義務的に習っていたので英語を習う意味がいまいち分かっていなかったし、自分の英語や発音に自信がありませんでした。ですが、今回のホームステイで片言ながら会話ができたり、自分が言っていることが相手に伝わると、とても嬉しかったです。そして、「自分が言いたい

ことをもっと上手に伝えられるようになりたい」と思うようになりました。なので、これからはもっと英語を学んでいこうと思いました。

次に、日本とニュージーランドの文化の違いです。私がホームステイしている家では、ファミリーから「Help yourself（自分で自由に調整して）」という言葉をよく言われ、家族の一員のように扱ってくれました。一年前、私の家族がホームステイの方を受け入れた時は「客」として扱っていたので、ニュージーランドの人は気さくな方が多いなと思いました。また、（海外では割と当たり前だと思いますが）浴槽が無くシャワーのみだし、スーパーマーケットでは、全ての商品が大きかったです。そして食べ物の種類が豊富だし、イギリスの文化が混ざっているので、日本の「ポテトチップス」を「クリスプ」、「フライドチップス」を「チップス」と言っていました。そして、ニュージーランドでは、人参などの野菜をそのまま（カットだけして）弁当に入れているのにはびっくりしました。一つ一つは小さな違いかもしれないけれど、やっぱり日本とは違うなと思いました。



最後に、コミュニケーションの大切さです。私は人見知りをする方で、初対面の人とは上手く話せません。そのため、ホストファミリーに自分からあまり話しかけられませんでした。しかし、ファミリーの人たちはよく話しかけてくれたし、とても親切に接してくれました。私はそのことから、コミュニケーションの大切さ、積極的に話すことの大切さを学びました。なので、これからは何事にもチャレンジしていきたいです。



今回は私にとって初めての海外でしたが、ニュージーランドの人の親切さや優しさ、文化の違い等について学びました。たった10日でしたが、私はニュージーランドが大好きになったし、もっと英語を学ぼうとも思いました。そして、今回の研修旅行に行かせてくれた両親にしっかり感謝して私の今後（高校や進路）にしっかり活かしていきます。

最後に、引率者の三登さん、通訳の近藤先生、ソーランの指導をしていただいた吉岡先生、国際交流協会の倉田さん、本当にお世話になりました。ありがとうございました。



「姉妹都市ニュージーランド研修を終えて」

この研修旅行を終えて思うこと。自分自身の心境の変化よりなにより、参加した生徒5名がこの研修期間において大きな心の変化を遂げ、それを間近で見る事ができたことがとても大きな成果でした。

今回の研修旅行に参加したのは中学3年生の女子2名と中学1年生の男子3名。初めての事前勉強会で顔を合わせた時、正直まだまだ幼い彼らを見て、大丈夫かな??と母親目線で少し心配な気持ちになったのを覚えています。計6回あった事前勉強会ですが、それぞれの勉強時間も短かったためか出発前段階でも5分の3は大人しいメンバー笑。でも、「海外へ行くことへの不安



はないの?」と聞くと、「ない。」と答える肝は据わったメンバーでした笑。事前勉強会では、実際の会話の場面で使えるフレーズをできるだけたくさん教えるように心がけました。相手に何かを頼みたいときの表現や、自分がしたいことを伝えるときの表現など、実際にホームステイ先でありそうな場面を想定しながら勉強会を展開しました。

事前学習会の期間もあっという間に過ぎ、迎えた研修旅行出発当日。まさかの大雨に見舞われましたが、相変わらず落ち着いているメンバー笑。そんな5人の中学生メンバーと引率2名で研修旅行が始まりました。



旅行が始まったとたん、さっきまで大人しく個人個人でいたメンバー同士の距離が急に縮まり始めました。長い移動を終えてウェリントンでの夜。ビクトリア山からの街の景色を見た後にホテルで夕食をとり、その後みんなで近くのスーパーへ出かけました。それぞれがお菓子を買込み、みんなで部屋に集まってお菓子を食べました。この旅行を通して、思っていた以上に男子が買い物を楽しんでいるのが意外で、とても微笑ましく感じま

した。

次の日からいよいよホームステイが始まるということもあり、不安とワクワクが入り混じっている様子のメンバー。これからの数日でみんながどんな変化を遂げるのか、わたし自身

もワクワクの夜でした。

次の日、マスタートンから純子先生が来てくださりウェリントン市内を観光しました。国会議事堂や裁判所など市内に健在するいくつかの施設の外観を見て回りました。現在のニュージーランドの首相は38歳の女性ということで、ニュージーランドでは女性差別はなく、政治においても女性が権力を持っているというようなお話しも聞け、とても興味深い時間でした。お昼は純子先生おすすめのレストランでランチをしました。女子のテーブルでは旅行大好きな純子先生の旅話がたくさん聞け、大いに盛り上がりました。

ランチの後は現地のお世話役リチャードさんと合流し、いよいよマスタートンへの移動でした。移動中、戦争中に日本人の捕虜たちが生活した収容所の跡やその当時の様子を展示した資料館、慰霊碑などを訪れ、こんなところにも日本とのつながりがあったのかと驚きました。

マスタートンに到着するといよいよホストファミリーと対面。それぞれのお家へ移動でした。今回、急遽ホストファミリーの体調不良で受け入れ先の家族が変わるという事態もありましたが、リチャードさんがきちんと代替りの家族を押さえていてくれたため、新しい家族への移動もスムーズにいき、ほっと一安心でした。ホストファミリーとの自由行動もそれぞれ楽しい時間を過ごせたようです。私たちもマスタートン市のジョナサン議員と奥様、お孫さんと一緒にキャッスルポイントという有名な灯台のあるビーチに連れて行っていただきました。生徒たちも5人中4人は同じ場所へ連れて行ってもらったそうで、自由行動だった日曜日はとても天気に恵まれホストファミリーとそれぞれに良い1日を過ごせたようです。



5日目からは学校訪問が始まりました。毎日の送迎場所であるソルウェー小学校でマオリ式の歓迎を受けました。お返しに練習してきたマオリの歌を歌いました。みんな緊張していたのか全く声が出なかったため、みんなの緊張をほぐし、次はもっと大きな声で自信を持って歌おうねと促しました。その後の市長訪問、テクラカウパパ校ではみんな

な声がしっかり出るようになり、披露したソーラン節もとても褒めていただきました。

その後も様々な場所で、歌、ソーラン節、スピーチを披露していき、日に日に生徒たちが自信を持ち始めているなと感じました。最初はリチャードさんや市長、ホストファミリーに質問されてもなんと答えていかわからなくて黙ってしまったり、声がとても小さくて相手に伝わらなかったり、そんな経験を経て、だんだんと、伝えるにはどうしたらいいのか、つたない英語でも自分が伝えようとすれば伝わるんだということが分かってきたようで、マスタートンでの最後の夜のサヨナラパーティーでは、それぞれのホストファミリーと笑顔で会話をしている姿が見られ、とても安心しました。

ホームステイ期間中も日中は生徒たちと行動を共にしたため、生徒から、「実際にステイ先の家族と話をするとき、あのフレーズがとっても役に立つ！」「習ったフレーズが色んな場面に応用して使えるから便利！」というように、勉強会で教えた事を、実際の場面で使ってい

たようで、とても感心しました。

8日目、マスタートンでのすべてのプログラムとホームステイを終えてオークランドへ向かいました。その時のみんなの自信に満ちた晴れ晴れとした顔はとても印象的でした。無口だった生徒が、自分から私にどんどん話しかけてきてくれ、微笑む程度の笑顔しか見せてくれなかった生徒がみんなの前で大声をあげて笑うようになりました。質問には答えるけどそれ以上は話そ



うとしなかった生徒が自分の特技をどんどん披露してくれました。単純にメンバーに慣れた、ということだけではなく、海外でのホームステイという初めての経験を経て、一人ひとりが自分に自信が持てるようになったのだなと感じました。

参加した生徒の一人が夕食のときに私に言ってくれました。「10日間で何が変わるんだろうって思ってたけど、本当に変わるんですね！」

この研修旅行に関わって本当によかったなと思えた瞬間でした。子供たちが日本を飛び出し、異国の地で現地の人々と交流をし、その土地の良さ、そしてもちろん日本の良さにも気づけた10日間。日々、日本とニュージーランドの違いについて気づいたことがあれば日記に書くように生徒に促しました。中でも生徒たちが一番感じたのはやはり学校の違いのようです。これは私もとても感じたことですが、日本の学校では現在でも一方的なレクチャー形式の授業が多いのが現実ですが、ニュージーランドの学校ではディスカッション形式が一般。生徒は自ら問題に対してリサーチをし、問題解決をしていくといったクリエイティブな授業が行われていました。現地の先生が「学校が楽しくなくちゃね。」と言っていたのがとても印象的で、参加した生徒も、ニュージーランドの学校は日本に比べて自由でとても楽しかった。と口々に言っていました。

また、もう一つ印象的だったのが、ニュージーランドの人たちが原住民であるマオリ族をととても大切にしているということでした。自分たちの今住んでいる土地に元々住んでいた原住民を大切にするのは当たり前。そんな心がニュージーランドの人たちの温かさを作り上げているのかなと感じました。

最終日、オークランドのデボンポートという町での散策中、生徒と一緒に古本屋を訪ねました。自分が読めそうな簡単な本を探してごらんと声を掛け、一緒に自分で読めそうな本を探しました。丁度生徒が以前テレビで見たことがあるというお話の原作本があり、2人の生徒が購入しました。「これならたくさん書き込んで勉強できそう！」とこれからの英語学習にもとても意欲的な姿にこちらも嬉しくなりました。

あっという間の10日間ではありましたが、それぞれの生徒に起きた心の変化により、彼らがこれからどのように羽ばたいていくのかとても楽しみです。既にそれぞれに夢を持って

いる生徒もあり、またこの研修旅行中にやりたいことが見えてきた生徒もいます。「またみんなで旅行しよう！」と声を掛け合っている姿を見て、これからも付き合っていきたいと思えるメンバーになったことをとても嬉しく思いました。

この研修旅行が彼らの将来を後押しするものであり、そのお手伝いできたとしたら、とても幸いです。

最後に、この研修旅行を行うにあたって、現地でご尽力いただきましたリン市長、ジョナサン議員、純子先生、そしてリチャードさんに心より感謝申し上げます。

また大切なお子様を１０日間快く送り出し、見守ってくださった保護者、ご家族のみなさまに心より感謝いたします。



オークランド スカイタワーで食事

「ニュージーランド研修を終えて」

私はこのニュージーランド研修を通じて、異なる文化の生活を体験することは自分や自分の回りの物事に目を向けるきっかけになると感じました。

今回の研修旅行では、私は引率として姉妹都市マスタートンへ訪れました。研修旅行の参加者は、中学1年生の男子3人と、中学3年生の女子2人です。生徒たちはみんなとても真面目で、はじめは真剣な顔をしていることが多かったのですが、事前学習会の中で、通訳のケイコ先生に英語を習ったり、ソーラン節の練習をしたりしていく中で、どんどん笑顔が増えてきてうれしく思いました。



この研修旅行は少人数での研修であるため、学校で行く修学旅行よりも密度の濃い体験ができ、様々な思い出を作れることが特徴だと思います。そこで私は、研修旅行に申し込んできた熱意のある生徒たちの期待に応えて、生徒たちが主体的に物事を決めて研修旅行のプログラムに取り組めるようにサポートをしていきたいと考えました。具体的には、引率者として、彼らが遠慮することなく自分の思いや疑問を言葉にできる関係性を作り、彼らの意志を尊

重しながら意見を取り入れていくことです。そのためには、生徒たちとの信頼関係が大事ですが、事前学習会を通じて生徒たちはすぐに打ち解けてくれました。ニュージーランドへの出発するころには、気軽に話しかけてくれるようになっていました。

一緒に研修旅行をしていく中で生徒たちに驚かされたことは、生徒たちの新しいことを楽しみながら学んでいく力です。生徒たちはニュージーランドの地に立っても、物怖じすることなく目を輝かせながら研修旅行を楽しんでいました。不安なことも多少はあったと思います。その不安な中でも精一杯その状況を楽しむということはなかなかできるものではありません。生徒たちが慣れない環境であるニュージーランドを楽しめるか不安に感じていた時期もありましたが、その顔を見ることがとても安心したことを覚えています。





英語についての変化は目を見張るものがありました。マスタートンに着いてホームステイプログラムが始まってからは、生徒たちが英語でしゃべることへの抵抗感がなくなり、英語で会話するときの声が大きくなっていきました。英語で会話することへの向き合い方は海外で英語を実際に話してみないと感じられないことが多いと私は思います。相手に気持ちを伝えたいけれど今の自分では十分に伝えることができない歯がゆさが日本に帰ったときの英語を学ぶ意欲になると

私は思います。その歯がゆさを感じた生徒たちは日本に帰った今では、英語を学ぶ姿勢がとて

も変化しているはずで

マスタートンでのプログラムでは学校見学が特に印象的でした。さまざまな文化で生活し、日本とは違った学び方をしている同い年の子どもたちの表情を間近でみるのができたのはとても良かったのではないかと思います。一緒に授業に参加することで、課題をみんなでじっくり考え、積極的に先生へ質問をする現地の生徒たちの様子が伺えました。休憩時間にはみんなでギターを使って歌を唄ったり、一緒に校庭で遊んだりしました。ハカを力強く踊る小さい学生の姿を傍で見ることで、日本の学校では感じるののできない踊りの迫力を知ることができました。さまざまな様子を体験している間、生徒たちは本当に目を輝かしながら、現地の生徒たちとコミュニケーションをとっていました。学校見学が終わってからも、そのときのエピソードを嬉しそうに話してくれる生徒たちはとても充実した顔をしていました。



日本とは、学び方から遊び方までまるで違う環境を知るとは、自分の可能性を広げるとても良いきっかけになったと思います。そういった経験をしたからこそ、岩国空港に着いた時に、もっとニュージーランドに滞在したかった、もっと海外に行きたいという言葉が出たのだと思います。私もその言葉を聞いた時にとて

もうれしく思いました。いろんな考え方、捉えかたを知るとは、この後の生活で困難なことに遭遇し自分でそれを解決しなければならなくなったときに、必ず役に立つはずで

最後になりましたが、マスタートンでは、生徒が泊まったステイ先のファミリーやセントマシューズ女子校の純子先生、現地エージェントのリチャードさんはもちろん、どの学校の

校長先生も、LYN 市長、Jonathan 議員まで、家族と接するような温かい気持ちで私たちを迎えてくれました。今年でマスタートンとの姉妹都市交流は20周年になります。長きに渡り姉妹都市交流を続け、お互いがお互いの街を好きになっていたからこそ、この温かい気持ちの中で研修旅行ができたのだと思います。それは私が研修旅行で出会った人のみならず、過去姉妹都市交流に関わっていた多くの人たちのおかげです。今後も両市の人たちが良い経験をしていけるように、姉妹都市との友好関係を続けていく中で、私も国際交流の手助けをしていきたいです。



姉妹都市マスタートンでお世話になった方々



Lyn Patterson (Mayor)



Jonathan Hooker (Councillor)



CITY HALL (庁舎)



Junko Bracefield
(St Matthew's Collegiate School)



Richard Ellis



名誉市民章をいただきました

参考資料

1 協会会報「BLOSSMはつかいち」掲載記事

(1)平成30(2018)8月号

ニュージーランドへ行ってきます！

(2)平成30(2018)10月号

ニュージーランド研修旅行記！

BLOSSOM

はつかいち

廿日市市国際交流協会会報

姉妹都市マスタートン・ニュージーランド研修旅行2018



ニュージーランドへ行ってきました！



8月16日(木)から10日間、廿日市市からニュージーランドに5人の学生が研修旅行に行きます。14回目となる今回の研修旅行では、市内の中学生5人が参加します。今月号では、参加者の出発前の一言メッセージと、滞在先や日程などを紹介します。いよいよ今月、真夏の日本を発ち、南半球に位置する真冬のニュージーランドへ向かいます。現地と日本の時差は約3時間、気温差はなんと約25度！この10日間で夏と冬を経験できますね。みんな、現地でのホームステイや学校訪問を通じての交流を楽しみに、期待を胸に込めて行ってきま～す！

英語で会話したいです。日本とNZの文化の違いについて聞いてみたいです。ニュージーランド人は日本のことをどう思っているかなども知りたいです。(Tsubasa)

- ・フィヨルド、キウイを見たい
- ・NZの歴史を詳しく知りたい
- ・伝統料理を知りたい
- ・NZで人気の音楽を聴きたい

(Oharu)



現地で発表するソーラン節の練習。がんばりました！

たくさんの人と話して、NZの文化、生活を知りたいです。日本の文化も知ってもらい、日本との文化の違いを知りたいです。英語でどんどん自分から話しかけたいです。(Ichika)

このNZ研修で、英語の知識を高め、コミュニケーションをとれるようにしたいです。現地では英語で広島について伝えていきたいです。そして、NZについてしっかり現地で調べていきたいです。

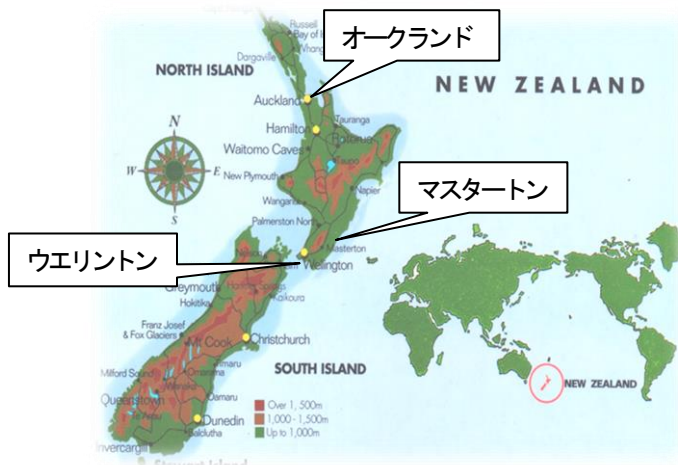
(Kiyataku)

Schedule

- 8月16日(木)
岩国空港を出発し、羽田空港からオークランドへ
- 8月17日(金)
オークランド到着後、ウェリントンへ
- 8月18日(土)
ウェリントンからマスタートンに移動。ホストファミリーと対面し、現地で日常生活を体験
- 8月23日(木)
午前、マスタートンを発ちオークランドへ
- 8月24日(金)
オークランドを出発
- 8月25日(土)
午前中に岩国着、盛夏の日本へ



ぼくがニュージーランドでしたいことは3つあります。①自分がどれだけ話せ、通じるのか、生活の中でどんな言葉を使うのか、どんな発音をするのかなど感じてみたいです。②文化の違いを知ること。食事のことだけでもたくさんの違いがあるはず。③自然を体で感じる。のどかな自然の中で育てられる羊など、ニュージーランドでしか見ることができない動植物を見たいです。(Hinata)



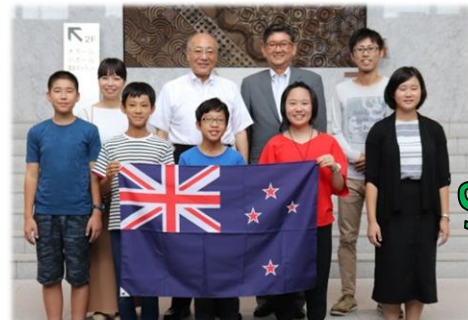


姉妹都市ニュージーランド研修旅行2018

参考資料:平成30(2018)年10月号

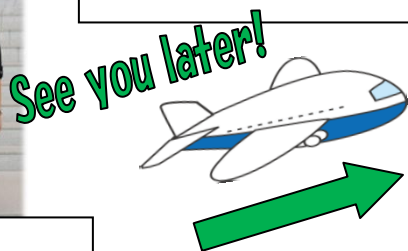
8月16日(木)～25日(土)の日程で、ニュージーランド研修旅行を実施し、廿日市市内在住の中学生5人(男子3人、女子2人)が参加しました。姉妹都市マスタートンでは、5泊6日のホームステイでニュージーランドの日常生活を体験しながら、交流のあるセントマシュー女子校や、ソルウェー小学校への訪問、大野学園の姉妹校のレイクビュースクールのクラス体験で、同世代の子ども達と交流しました。また、姉妹都市縁組のきっかけとなった、ジューケン ニュージーランドの工場見学など充実した時間を過ごしました。国立野生動物保護区ではキーウィをはじめとするニュージーランド特有の鳥たちに出会い、牧場や羊の毛刈りなども見学し、自然あふれる触れ合いの思い出と共に、無事、廿日市市に帰ってきました。

8月16日(木) 出発 NZへ行ってきます！



廿日市市役所正面玄関にて出発式
見送りの眞野市長、中村協会会長と一緒に

10時間を超えるフライトを終え、
無事ニュージーランドに到着！



8月17日(金) NZ到着 ウェリントン散策



ウェリントンからマスタートンに
移動途中の峠でパチリ



8月23日(木) マスタートンとお別れ オークランドへ

ホストファミリーと名残惜しみながらお別れ

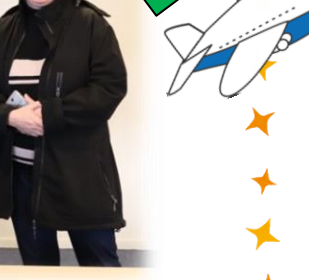


オークランドのシンボル・スカイトワーで夕食
スカイトワーからの夜景を前に

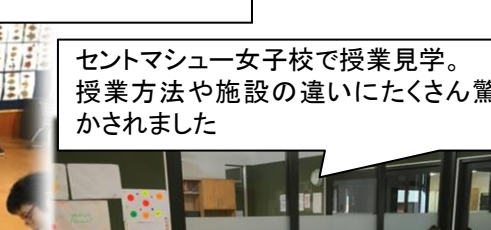
8月18日(土)～22日(水) マスタートン滞在 地元の人との交流



ホストファミリーとご対面。最初は少し緊張気味でしたが、フレンドリーなファミリーの笑顔でだんだんと打ち解けていきました



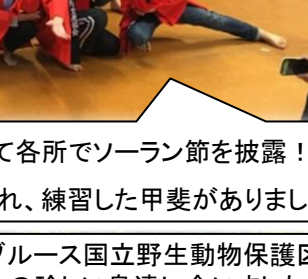
ソルウェー小学校で
マオリ式の歓迎



セントマシュー女子校で授業見学。
授業方法や施設のの違いにたくさん驚かされました



市長表敬訪問。リン市長となごやかにトーク



ハッピーを着て各所でソーラン節を披露！
どこでも喜ばれ、練習した甲斐がありました

マウント・ブルース国立野生動物保護区で
たくさんの珍しい鳥達に会いました



羊の毛刈り工房で糸紡ぎ体験

8月25日(土) ただいま！廿日市！

たくさんの思い出を胸に、無事廿日市に戻りました



I'm Home!

初めての海外でしたが、ニュージーランドの人の親切さや優しさ、文化の違い等について学びました。たった10日でしたが、私はニュージーランドが大好きになったし、もっと英語を学ぼうとも思いました。(遥果)

ホームステイなどを通じて、自分に自信を持つことが大切だと学びました。やりたいことは「やりたい」と言わないと、チャンスを逃してしまうことになってしまいます。でも、それを言うのには、やはり勇気がいりました。それを10日間、行うことによって、自分に自信がついたと思います。(暖大)

今まで以上に海外への興味が湧きました。かけがえない出会いがありました。英語をもっと勉強して世界中を見てみたいと思いました。そして、積極的に行動することで世界が広がっていくという事を身をもって学びました。(一花)

この研修旅行で心に残っているのは、やはり、ホストファミリーとの生活です。ホストファミリーの人たち、学校の生徒、そして友達と過ごした時間は楽しかったです。また、ニュージーランドに行きたいです。(翼)

日常会話がもっとできるように、日々の勉強をがんばり、英検にもチャレンジしていきたいです。もっと英語で自分の思いを伝えられたらいいなと思います。そしてまたホストファミリーと会いたいし、機会があれば、他の国にも行ってみたいです。(拓志)

テクラカウパ校では、本格的なマオリ式の歓迎の儀式を体験させてもらいました



ジューケン ニュージーランド見学

平成 30（2018）年度ニュージーランド海外研修旅行報告書

編集発行：廿日市市国際交流協会

廿日市市自治振興部協働推進課 国際交流・多文化共生担当

〒738-0014 廿日市市住吉二丁目2番16号市民活動センター内